

疲れた夫を癒すために
企画した温泉旅行

温泉好きのお義父さんも
加わって三人で行くことに……

……まさか……
こんなことに……

混浴 義父温泉

夫の横で義父チ○ポを啜えこむ妻のマ○コ

イカされまくりで中出しされて孕まされる

もう……
戻れない……

「瑛太」と「美里」は仲睦まじい夫婦として
近所でも評判だ

そんな二人の未来は安泰に見えたが……



ねえあなた
最近忙しすぎないかしら？

ああ少し仕事が
立て込んでね

そう…



瑛太さんの仕事が忙しくて
最近ずっとご無沙汰…

近所の奥様方は仲がよろしくて
いいわねなんて言ってくるけど



ふーったしかに
肩もバキバキだなあ…

ねえ本当に
無理なさらないで…

何とか疲れを
癒してあげたい…

……そうだわ

ねえ瑛太さん
久しぶりに
温泉に行かない？

…温泉か
いいねっ

ふふっ瑛太さんは
本当に温泉が好きよね

あの宿の露天…
確か混浴だったわよね

ああそうだよ
あそこの露天いいんだよなあ

ああっ
特に露天風呂は最高だよ
ぜひ露天のある宿に行こう

それに疲れを癒すなら
やっぱり美里と一緒に入らないと

ほら俺の気に入ってる
宿があったら？
あそこに行こう

もうあなたったら

あの宿は嫌？

嫌というか…
やっぱり少し恥ずかしくて

ははは 大丈夫

あの露天は
普段は誰も来ないし
誰かに見られるような
事はないよ

確かに今まで誰かに
会ったことはないけど…

だろ？
なら決まりだな

ふふっ そうね
分かったわ
あの宿にしましょう

よーし！
じゃあ休みが取れるよう
仕事頑張ってくるな

はい
行ってらっしゃいあなた

そうだわ
家を空ける事お義父さんに
伝えておかないと

ほう……

瑛太と温泉に？

はい最近瑛太さん
疲れ気味だから
温泉で癒されて
貰おうと思つて

なるほどなあ
それはいい提案だな

よし！
私も行こう

私も温泉が大好きなんだよ
いやむしろ瑛太の温泉好きは
私の血とも言える

そうだったんですか

お義父さんと
三人で温泉……

瑛太さんと二人で行きたかったけど
お義父さんも温泉が好きなら
一緒に行った方がいいわよね

それに露天以外は
男女別だし……
うん何も問題
ないじゃない

ふふっ
それじゃあお義父さんも
一緒に三人で行きましようか

ああよろしく頼む



わあっきれいなお部屋



ふう
やっと着いたな

いやあ疲れた

私は部屋で少し
休ませて貰うよ



お義父さん
運転有難うございました

疲れの溜まっている
瑛太さんを気遣って
お義父さんが殆ど
運転してくれた

おかげで瑛太さんも
少し元気が出てきたみたい

よしじゃあ俺達は早速
温泉に入ろうぜ

これこれっ

ここからの眺めが
最高なんだよなあ

誰か来たりしないかしら…

大丈夫だって
そんな事より
この景色を見ろよ

確かに…
すごく綺麗…

だろ？

ふふっ
あなたが元気になって
くれて良かった

俺そんなに
元気なかった？

すごく疲れた顔してた

そっか
心配かけたな

でももう心配いらないぞ
ほら

ああなたったら

すごく大きくなってる…

業業

可愛いなあ美里は

タオルごしでも
素晴らしいスタイル
なのがわかるよ

うんっもう
あなたったら……

ちゅぽん

誰もいないから
タオル取っちゃおうよ

ちゅぽん

美里のおっぱいは
相変わらず大きくて
最高だな

あんっ

ちゅぽん

いやっ あんまり
じろじろ見ないで

美里…
このままじゃよっか

あつあつうんっ
こここでっ…あつあつ

はあ
はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

んくう…でもおつ
や…やつぱり…あんっ
ここでなんて…ダメよっ

そう
俺のお気に入りの
この場所で…

誰も来ないって
それに美里も気持ちいいだろ？
さつきから腰がうねってるぞ

だってえ
瑛太さんの硬いのが…
当たって…あんっ

あつあつ

美里愛してる…

んっ
瑛太さん
…私も…

んあああつ
あなた…っ

んっそんなに強く
触られたらっああつ

だつてえ…
あなたにしてもらうの
久しぶりで…あつ

俺の手で美里のおっぱいが
グニグニ変形してるよ

あつんっ
気持ちいい

あううっ
おっぱい揉まれるだけで
体ビクビクしてしちゃう

はは肩が震えてる
そんなにイイ？

あつんっ
あつんっ
あつんっ

あつんっ

グニグニ
グニグニ

美里の凄く気持ちよさそうな顔見てたら俺も…

……っ
瑛太さんの硬いのがあ…っ
私の…っアソコに当たってるう

あああつ
恥ずかしい所がヌルヌルで…っ
硬いので擦られるのいいっ

ああつんふうっ
あなたので擦られてんっ
アソコが期待しちゃってるのお

気持ち…いいっ
気持ちいいのお…っ

ねえあなたお願いあい
もう挿れてえ

こうして擦りつけてるだけで
ヌルヌルの愛液が
とめどなく溢れてくるよ

ニムカ
ニムカ
ニムカ



こんな所で挿れているのかっ

さっきまであんなに誰か来ないか気にしていたのに

いっっいっのり
私…もう我慢出来ないっ

俺もだっ

いっっいっのり
いっっいっのり

いっっいっのり
いっっいっのり

あ
あ
あ
あ

あ
あ
あ

いっっいっのり

いっっいっのり

いっっいっのり

いっっいっのり
いっっいっのり

おお 良さそうな
温泉だなあ

きゃっ
おお義父さん

急に入ってくるなんて…

あせ
あせ

……まったく
どういうつもりだよ

いやー
すまんすまん

うう…お義父さんも
露天に来るだなんて

それもあんな事を
しようとした時に…っ

見られちゃったかしら……

大丈夫
親父は眼鏡かけないと
よく見えないから

美里の裸は見られてないよ

わんわん

いやぁいい温泉だ
湯も柔らかいなあ
ふうふう

お義父さん全然気にしてないみたい
やっぱり見えてないのかしら…

それなら…こうして
一緒にいても大丈夫…よね

そうだ！親父
マッサージ
上手かったよな

色んなマッサージ店に通ってるからな
そこの新人マッサージ師よりかは
腕に自信あるぞ

久しぶりに頼むよ
俺肩がバッキバキでさあ

仕方のないやつだなあ
よしここに座れ

よろしく

……っと
どうだ？

あああああ
最っ高……

だろう？

急にお義父さんが入ってきて
どうなるかと思ったけど…

瑛太さんリラックスしてる…
瑛太さんに元気になって貰う為に
来たんだもの…良かった…

ふうっ
なんか少し
のぼせてきたな

俺はこの辺で
上がるな

美里はゆっくり
していいからな



え？
ああなた……っ

どうしよう
お義父さんと二人きり

でもすぐに出ていくのも
感じが悪いわよね

美里さん

美里さんにも
マッサージして
やろうか？

あんたも毎日家事や
何やで大変だろう
さ遠慮せずに

え？いえ
そんな悪いですっ

いいからいいから
な？

えっあのっ
本当に悪いですから…っ

どうしよう
あんまり拒否するのも
よくないわよね

お義父さんは
善意で申し出て
下さってるんだし…

それじゃあ…
少しだけ…

よし
じゃあしつかり
揉みほぐして
あげよう

はい

美里さんも肩が凝ってるなあ
どれ もみもみもみ…っ

どうだい？

んっんあんっ

びく
びく
びく

びく

びく

ん…気持ちいいです
しつかりツボに入って…
あふうっ

へ変な声出ちゃった

マッサージとしても
気持ちいいんだけど
それ以上に…

さっきの
瑛太さんの行為で
体が敏感に
なっちゃってる…っ

きゅん
きゅん
きゅん

きゅん

ここを押すと
凝りに効くんだよ

ゲ
ツ

あっあふっ
ああん…っ

声…出ちゃ…っ

どうしたんだい…?
痛かったかな?

いいえ…
そんな事ないです…
大丈夫です…

あ
あっ♡

どうしよう…
変な感じに
なっちゃうっ

そうかい?
それじゃあ続きを…

もみ
もみ
もみ

鎖骨の下も
凝ってるねえ

あ
あ

ひゃふんっ
そこはっ

胸に近くて…
感じちゃうう…

ほらっこの
リンパのところ…

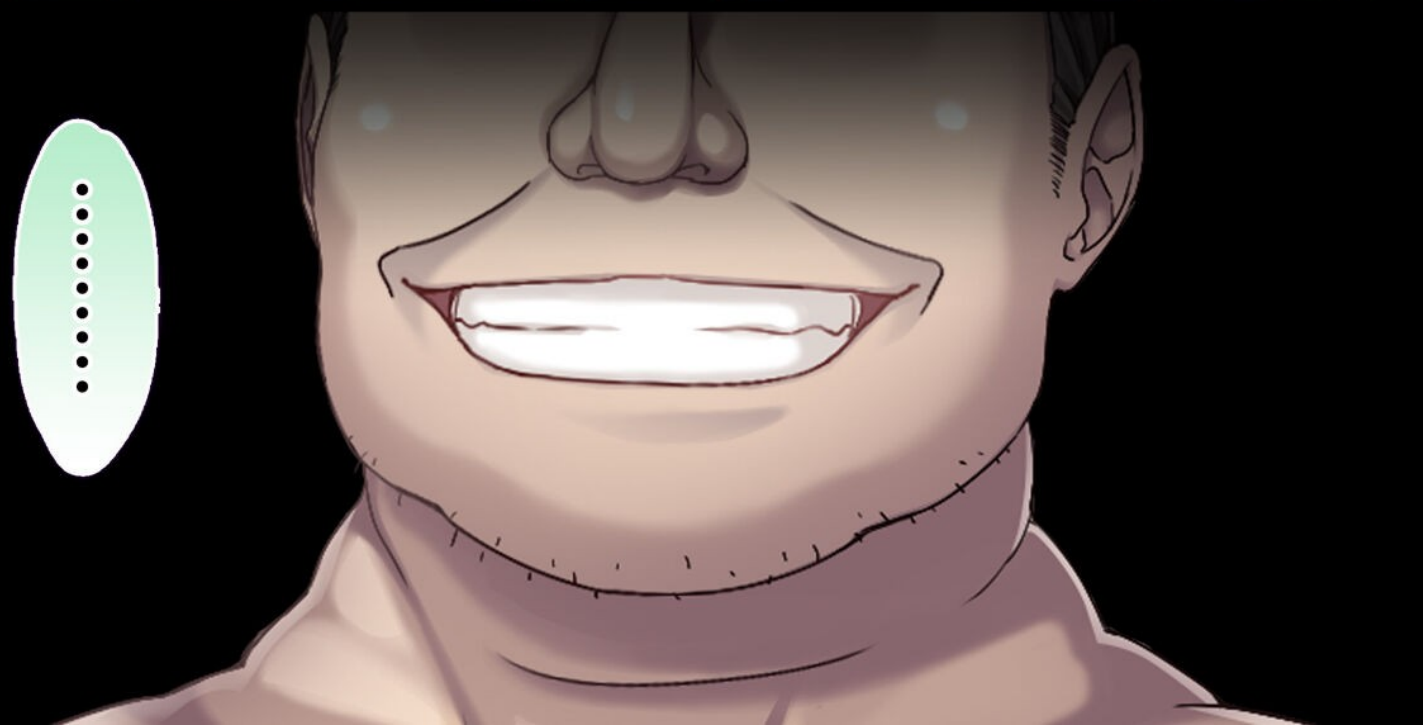
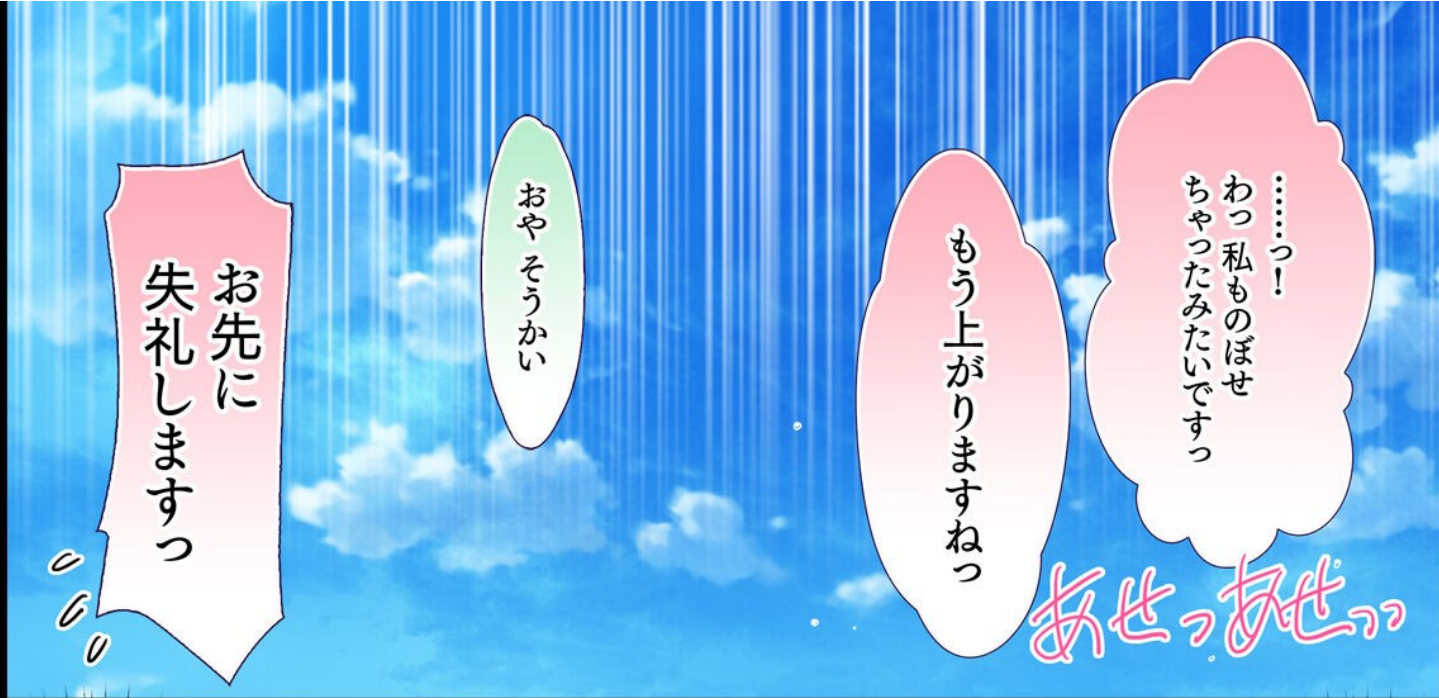
ふああっ
んっんふあっ

ひっ体が
あああんっ

ダメダメ声抑えられないっ
これ以上されたら…私…っ

美里さん
随分と肌が
紅潮してきたね



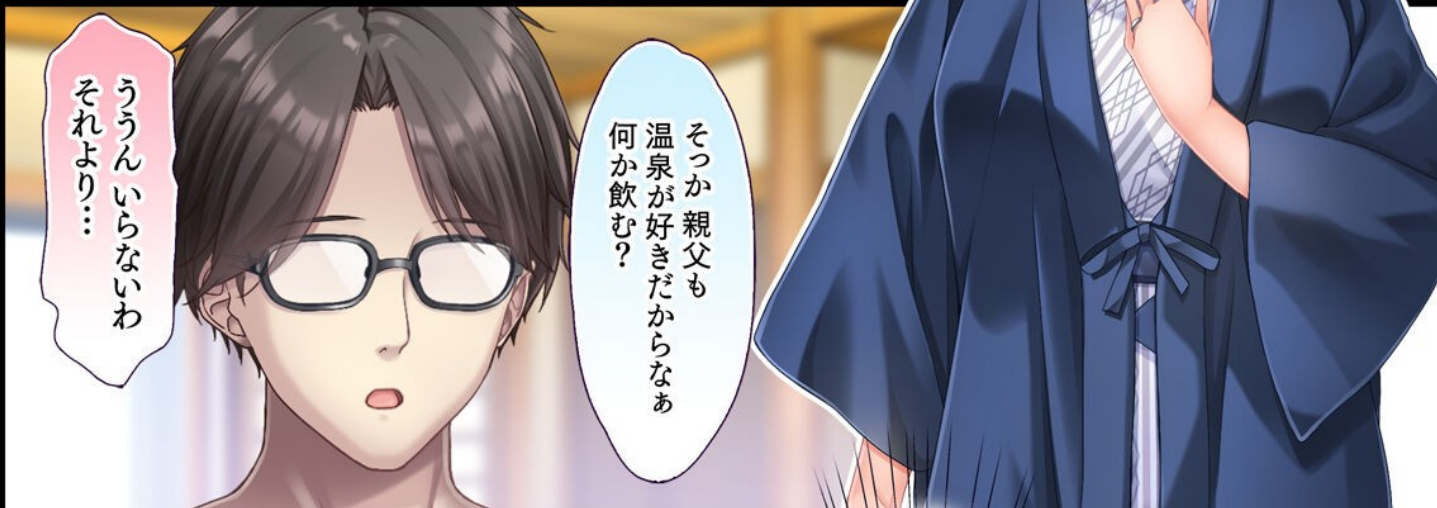




戻りました

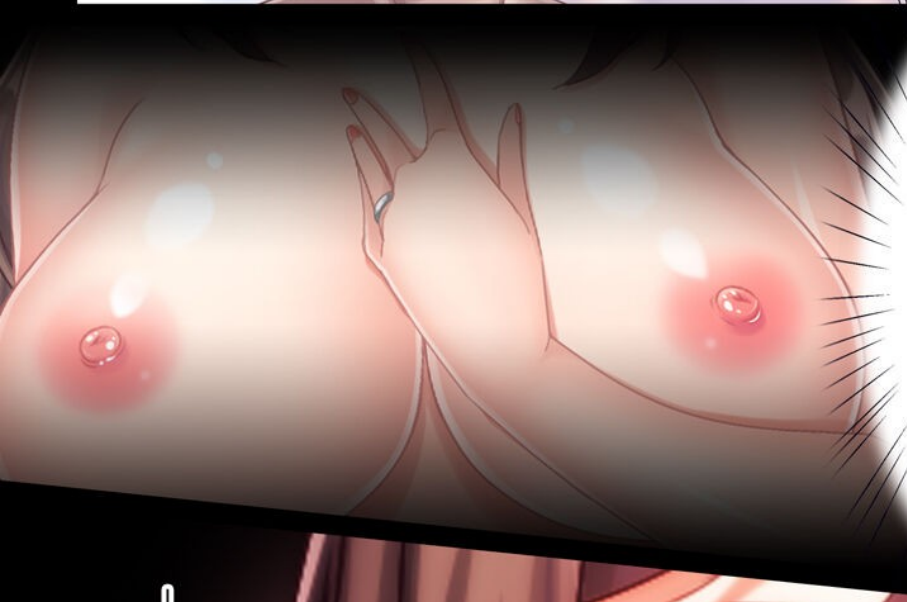
お帰り
親父は？

まだ温泉を
楽しんでるわ



そっか親父も
温泉が好きだからなあ
何か飲む？

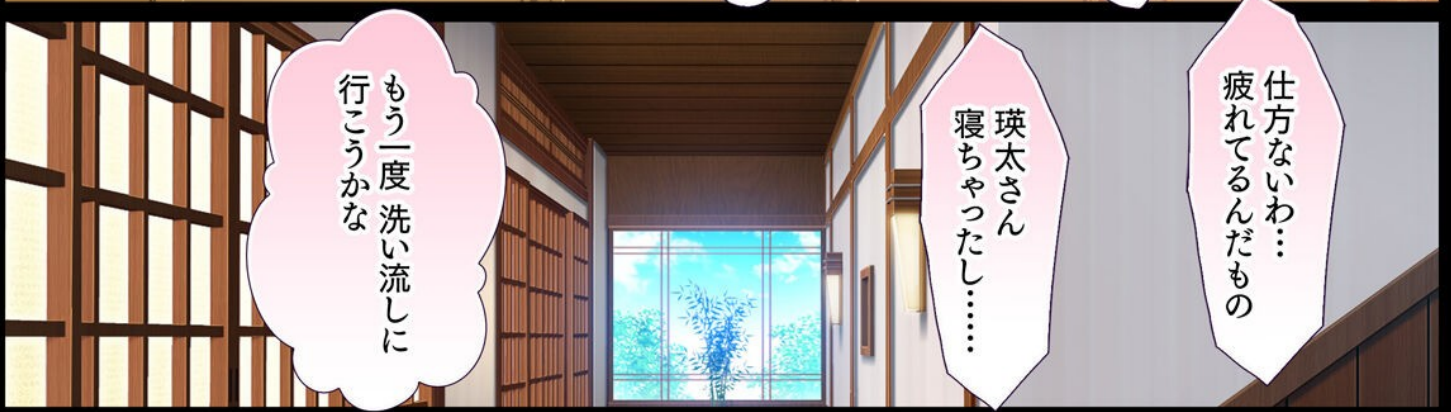
ううんいらないわ
それより…



瑛太さんに触られた後に
お義父さんにマッサージされて
体が火照ってる



ねえあなた…



ふふっ
貸し切りね

お義父さんも
いないみたいだし…

タオル取っちゃお

……はあああ

何だか変な気分になつてきちゃってたし

少しここで
落ち着いていこう

おや美里さん
戻ってきたのかい

お……お義父さんっ
もう出られたんじゃないや……

あつタオルが
……っ

……でもお義父さん
眼鏡ないと見えないって
言っていたし……

全く
あいつは……

瑛太は？

いやあ
少し涼んできただけだよ

そう……でしたか……

少し眠りたいって

そうだ
マッサージの続き
してあげようか？

えっ

瑛太ばかりリラックス
してちゃズルいだろう？
主婦だって疲れてるよなあ

は……はい

マッサージして
貰うだけ……
それだけの事よ……

ううんやっぱり
凝ってるなあ

あうっん……
あ……っそこ……っ

どうした？

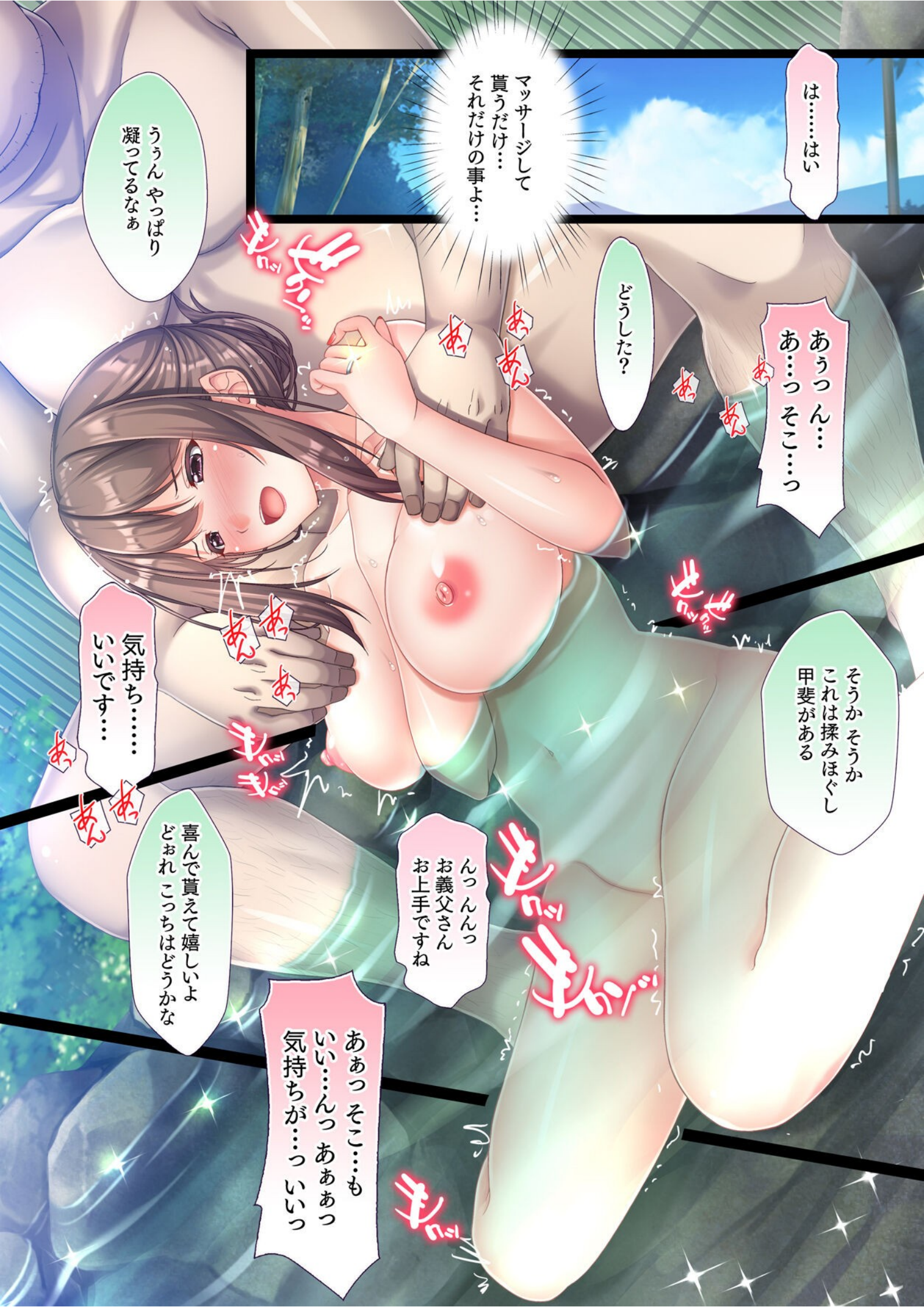
そうかそうか
これは揉みほぐし
甲斐がある

んっんっ
お義父さん
お上手ですね

ああっそこ……も
いい……んっあああ
気持ち……っ

気持ち……
いいです……

喜んで貰えて嬉しいよ
どおれこっちはどうかな





…もつと
気持ちよくなる
マッサージも
あるんだがなあ

もつと…？

そうもつと気持ちよくな
りたくないかい？



なりたい…です…

ははは美里さんは
素直だなあ

どうれ



あつ そ…
そんなところ…っ

美里さんのおっぱいは
大きいねえ

やめ…ダメですっ
こんな…ああつ

これだけおっぱいが大きいと
肩が凝るだろう
念入りに揉んでやらんと



あつああんっ
胸…がっあふうっ

あ…ああ…
そん…な風に…っ
触られたら…っあううっ



大きいだけ
じゃなく柔らかい

ほうらおっぱいをこうして
マッサージしていると
どんどん形が変わっていくぞ

んふあつあんっ
それ以上…っ
揉んじゃ…だめえ…っ

そ…それはあつ

体がどンドン感じ
ちやつてるうう…っ

でも乳首は硬く
なってるじゃないか
感じてしまったのかい？

だめだめえっ
相手は瑛太さんの
お義父さんなのよっ

キュウウ

美里さん我慢せずに
もつと声を出していいんだぞ
誰も来ないんだから

そ…そんな事…っ

ほらっ

んあふああつ

キョッ

キョッ
キョッ
キョッ

そうそう
乳首をきゅうつとされると
たまらなくなるだろう？

あああつんつんふううつ
先っぽ…ダメ…
も…もう…

よおしよし
もつと乳首のマッサージを
してあげようね

きやふううんつ
ああつんつ ダメツ
ダメダメダメツ

気持ち…
いい…っ

いい反応を
するじゃないか

どれこっちの方は
どうかな？

ダ…ダメッ
そっちは…っ

は…恥ずかしいっ
お義父さんもう許してえ…

とっ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

乳首だけじゃなくてクリも
硬く勃起してるじゃあないか

おおっお湯の中でもわかるぞ
こっちも大洪水じゃないか
指があっという間にヌルヌルだ

それは擦ってくれと
いう事かな？
どおれ

あ…あううっ
そそこ擦られると…
私…っ

んんん

アソコが…痺れちゃ…っ
あっあっあううっ

クリは上下に
擦られるのが好きかな？
それとも軽く
叩かれる方が好みか？

あつあああ
どどつちも…あああ……
どつちも好き…ですう…っ

いやらしいなあ
美里さんは

いやらしい嫁でんくうっ
いめんなんごう……っ
あふああっ

もうダメえ…
気持ちよくなって…あああっ
理性があ飛んでつちやううっ

ほおら
おっぱいの硬い所も
こつちの硬い所も

両方同時に
シコってあげるから

あああつ指い凄いの…っ
上も下も同時に責められて

私…っあああ
いっぱい感じちやううっ



首筋が紅潮してるぞ
気持ちいいんだね 美里さん

はい…っ
気持ちいい…っ
たまらないんです…
あふうっ

マッサージは私の得意技だからね
このまま任せなさい

瑛太さんのお義父さんの指で
こんなに感じて…

瑛太さんに中途半端に
触られた体が…やっつと
やっつと満たされそう…っ

ダメなのに…
こんな事…ダメなのに…

ふあいつ 気持ちいい…
気持ちいいですう…っ

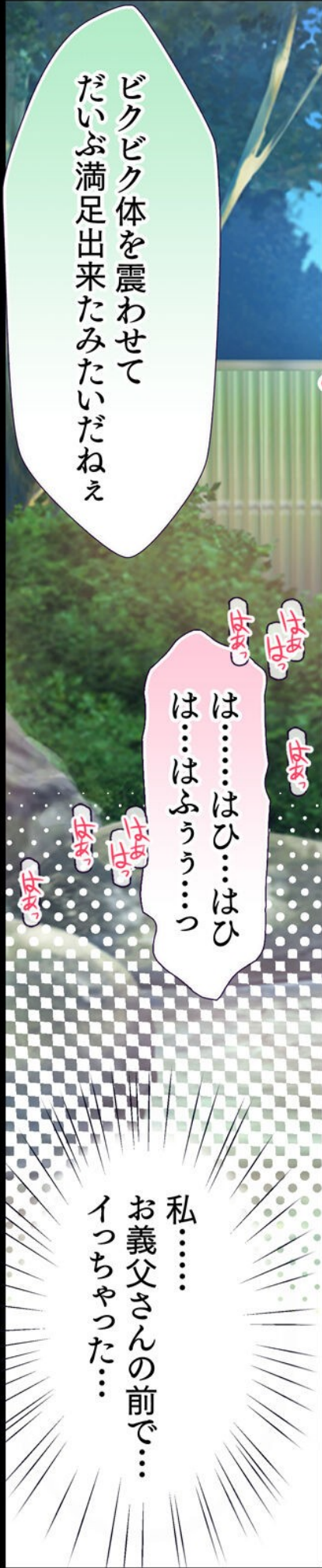


ああっお義父さんの
指使い凄...

イク...イク...いつちやうつ
お義父さんの指で...私...っ

こんな風に
おっぱいもアソコも
こねくり回されて...
私私もう





ビクビク体を震わせて
だいぶ満足出来たみたいだねえ

は……はひ……はひ
は……はふうう……っ

私……
お義父さんの前で……
いつちやった……



イツクううううううううううう

ああ

ああ

ああ

ああ

ああ

ああ

ああ



ごちそうさまでした

美味かったなあ
美里のご飯は最高だけど
たまにはこういうのもいいな

ふふっ 後片付けも
しなくていいしね

いやあ
飯も酒も最高だな
瑛太もつと飲むか？

そうだなあ
せつかくだし飲もうかな

よしよし 注いでやろう

おつととと…
ふはあつ 最高っ

タタタタ

ふふっ 瑛太さんったら
ご機嫌ね ♪

ふはあつ

その後も瑛太は酒を楽しみ
やがて深い眠りについた



瑛太さんグッスリ眠ってる

本当は二人で
もっと楽しみ
たかったけど…

幸せそうな寝顔…

瑛太さんの疲れが癒えて
この穏やかな寝顔が
見られたんだもの

これで十分幸せよね

来て良かったわ



瑛太のやつ美里さんを
放ったらかしにして

いいんですお義父さん
瑛太さんの疲れが癒えたなら
それで…

しかしそれじゃあ
美里さんが可哀想だろう



どれ…

ぎゃっ

何をなさるんですか
お義父さんっ

瑛太の代わりに
私が美里さんを癒して
あげようと思ってな

ダメダメですっ
こんな事…っ

そんな風に言いながら
抵抗する手にそこまで
力が入つたらんぞ

だって…

さっきのお義父さんの
指を体が覚えてて…勝手に
体が反応しちゃうっ

ほうら
体は正直じゃないか

だめっだめですっんんうっ
瑛太さんが目の前にいるんですよっ
んふああっあはっあ

こいつが酔うと滅多な事では
起きない事は美里さんも
知っているだろう

確かに…んっ
瑛太さんは簡単には
起きたりしないだろうけど…

だけどこんな事…っ

眠ってるとはいえ瑛太さんの
目の前でお義父さんとなって

こんな事って
さつきはあんなに
素直だったじゃないか

だめ…やっぱり
いけない事です…

なあにマッサージだよ
マッサージ

あ…ああっ
あふううっ
ダメエ…っ

ほおら
気持ちいいだろう



あ…あああつ
んこんな…あああつ

ダメえ…
おっぱい感じちゃうつ
瑛太さんの前なのに…
でも…あああつ

ダメ…なのにな
感じちゃうのっあああつ
気持ち…いい…っ

美里さん
綺麗な乳首の色だねえ

ああつ
浴衣はだけちやつてるう
いやあ…見ないで下さい

こんな綺麗なもの
隠す方が無粋と
思わんか？

ほら私の手の中で
美里さんのおっぱいが
跳ねて喜んでる

あつ

はっ

あつ

んっんっ指が…
胸に沈んで…ああっ

お義父さんの指…
感じちゃううう

ごらん
乳首をキュウっと
摘まんで離すと

先っぽそんなに
弄っちゃうやあつ

おっぱいがブルンブルンに揺れる
このおっぱいは最高だね

ああつ

ああああつ
ダメもう…私…

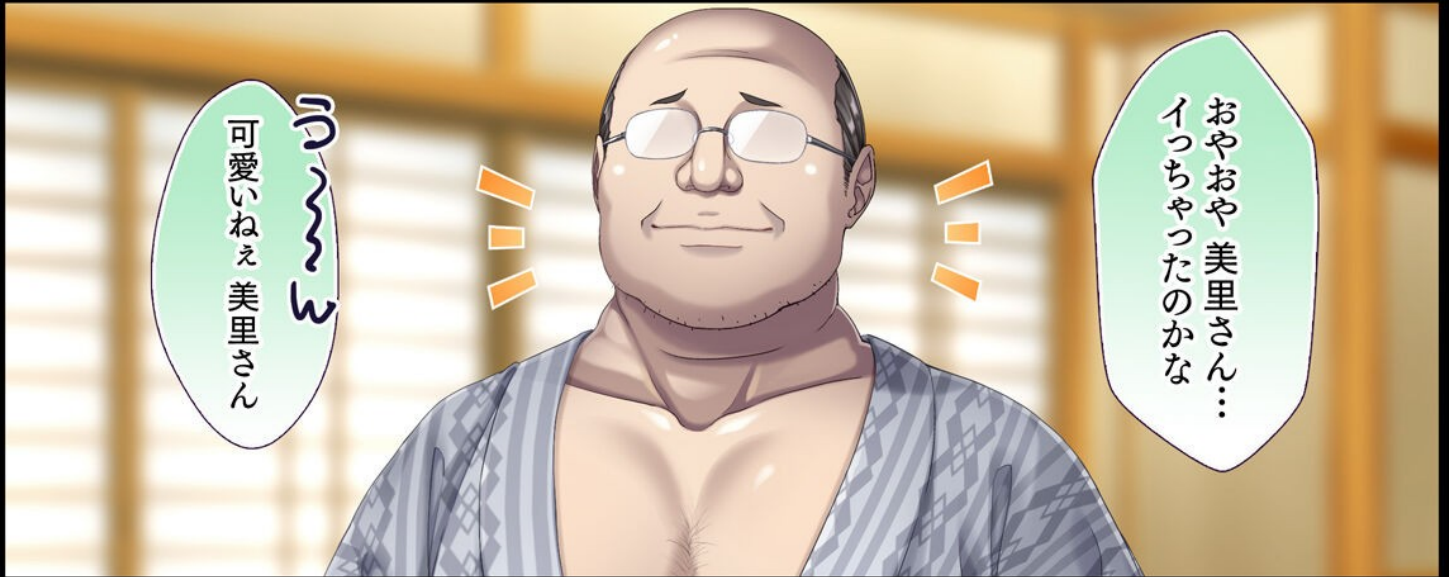


お昼にも……
お義父さんに
イカされたのに……

また……
またイっちゃう

おっぱいだけで
イっちゃうううっ





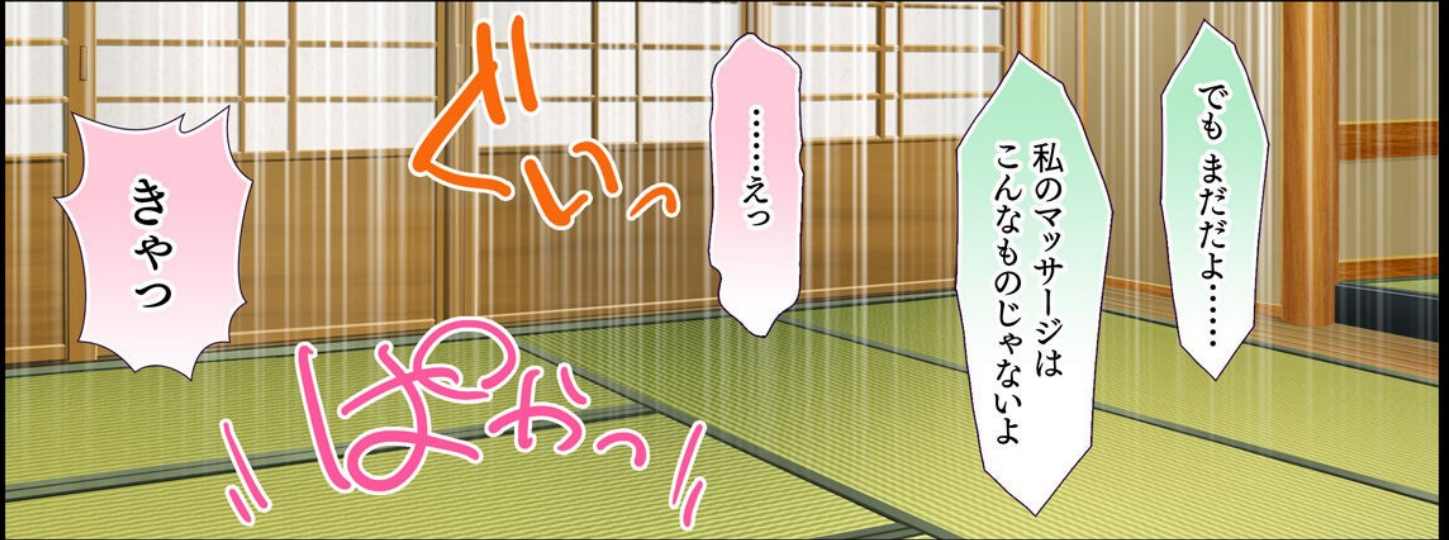
可愛いねえ 美里さん

おやおや 美里さん…
いつちやったのかな



は…恥ずかしい…
こんな…ああ…っ

乳首だけで
いつちゃうなんてえ…



おやっ

…えっ

私のマッサージは
こんなものじゃないよ

でもまだだよ……

びんびん
はぁ

おお
いい眺めだ

こんな
恥ずかしい格好……
やめて下さい……っ

許してえ……っ

あふあうっ
真ん中あ擦らないでえ……っ

ほうら気持ちよさそうな声を
上げるじゃないか

そんな事を言っても
ここをこうして撫でられると

あぁっ♡
スリスリ

あああ…見ちゃ…ダメ…
んっあああっ

うう…っ
声…抑えたいのにい
なんで我慢
出来ないのおっ

じゅわんっ

おや口とは裏腹に
マン筋におツユが
浮かんできたぞ？

美里さんのマ〇コは
肉付きがいいねえ

んんん

ひうつそんな…
わ…私…っ

こうしているとマン筋が
くつきり分かるよ

はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
お義父さんに見られて
興奮しちゃってる…っ

はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ

どうれ
風呂からあがったばかりなのに
パンツにシミがついたら嫌だろう？

きやあつ

や…やめて下さい…
こんな…こんなの…っ

美里さんは乳首だけじゃなくて
マ〇コもピンクで綺麗な色だねえ

ずるん

じっくり見ないでえ…っ

ふふそうだ
見るだけじゃいかな
…どれ

きやふうつ
ああっお義父さんの指い
私の膣内に挿入って…っ

おお
ヌルヌルのマ〇コが
私の指を簡単に
飲み込んでくじゃないか

あつあああつ
膣内あそんな風に
弄っちゃ…あううつ

にゅるにゅる



美里さんは
奥とクリトリス
どっちが好きかな？

やっぱり
クリトリスか？



んっはあ
ああつ

そこ弱い
弱いですっ
だから…っ

よおしよし
クリトリスが大好きか
たくさん擦ってやろう

くにくにくに



あああつ

そこ…グリグリされると…
ああんっいいっ

あっあつ
感じちやうっ

感じちやうのおおっ

ぐりぐり
ぐりぐり
ぐりぐり

おお美里さんのマ〇コが
気持ちいいって
私の指に絡みついでくる

マ〇コ汁も止めどなく溢れて
私の指がふやけそうだな

このままマン汁が出続けたら
美里さんのマン汁温泉が
浴びれそうだな

どれ美里さん
もつと素直に感じなさい
こうやって膣内を掻き回されると
マ〇コが喜ぶだろう？

んっんっ
素直に…なんて…
なれません…んふああ

こんな状況で無理よお…っ
瑛太さんが…
瑛太さんがいるのにな

あふっんっ
だっソコ…あああ
気持ちよすぎてるっ

ふああうう…っ
ああんまり意地悪な事
言わないでえ…っ

…それじゃあ
ここでやめても
いいのかな？

え…？
やめ…る…？

このまま大人しく
朝まで眠ってしまっても
私は別にいいんだぞ？

そんな…体が反応してるのに
こんな状態で放っておかれたら…
私…おかしくなりそうっ

すっ

どうした？
何かして欲しい事があるなら
ちゃんと一言わんと分らんぞ

あ…
お願いします…
続きを…

ん？なんだ？
なんの続きだ？

ちつき…

お願い欲しいの…っ
お義父さんの指…
欲しい…っ

ちつき…

はあ
はあ
はあ

で…ですから…っ

このまま朝を
迎えるなんて無理い

私…私…っ
お義父さんにイカされ
たいのおっ

うう…はつきり言わないと
して貰えないんだわ…
恥ずかしい…けど…

あなたごめんなさいっ

お…お義父さんの指…で
わ私のおま○こ…
ほじって下さ…っ

ふふふ可愛い嫁に
そんな風に頼まれたら
断れんよなあ

どおれ
美里さんのスケベ穴

望み通り私の指で
グチヨグチヨにしてやろう

ああっ 指っ 指凄いの
私の膣内で激しく
動いてっ ああっ
ダメっ ダメっ

あつ ふああううん
あつ あついい
お義父さんの指いい

あああふううんっ
おま○こ気持ちいいっ

マ○コがパクパクしてきたぞっ
イクならちゃんと言いなさい

ふあいいいっ
お義父さんの指でえ
おま○こいっぱい擦られてえ

美里お
もうイキますっ
イっちゃいますっ

あつあつ ああああ
はしたない嫁で
ごめんなさいっ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ



おっぱい

おまんこ

お尻

おおつ
こりや凄い

あ...ああ...あふう...う

はあっはあっ
ここんな...ああ...う

私...お義父さんの前で...
潮...噴いちゃった...

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ

はあっ
はあっ

美里さんの温泉は
間欠泉だったみたいだな
見事に噴き出してきおったわ

ひゅひゅひゅひゅひゅひゅ

さてそれじゃあ…
次は私も気持ちよくして
貰おうかな

そそれは…

まさか嫌とは
言わんよなあ？

でも…あの…

無理よっ
お義父さんとなんて

自分はすっかり
気持ちよくなっておいて
私には何もなしかな？

潮まであんなに噴いておいて
それではあまりに礼儀に
かけると思わんか？

あ…あの…
じゃあ…口で…

口でご奉仕
させて下さい…

そうかい？
じゃあ頼もうか

は…はい…

口でするだけだから…
あなた…許してね…

むぐっんっ
んぶあっ

ほらほら唾えるだけ
じゃなくて
しっかり舌も使わんと

大きっ
んぐうっ

ふあふあいつ
ぺろっじゅるっ
じゅちゅうううっ

お義父さんの
瑛太さんのより
大きいつ

それに凄く硬くて…
口の中がいつぱいになっちゃう

ぢゅちゅうううう

どうだ？
私のチ○ポは

しゅごく…大きくて
カリも張ってて
あふっんっ

舐めると…
カウパーが溢れてきて

ひゅん
ひゅん
ひゅん
ひゅん
ひゅん

口の中が…
全部…んっお義父さんの
味になっちゃううう

随分褒めて
くれるねえ

私のチ○ポを
気に入ったの
かな？

ん~~~~？

ああふう…
だつて…しゅごい…っ

こんな立派なおち○ちんが
私の膣内に挿入ってきたら…

ぢゅぽ
ぢゅぽ

ぢゅぽ
ぢゅぽ

んぐうっおはあつ
ぢゅぽおおっんふううう

想像したら…アソコが
切なくなってきたちゃうう

お義父さんの…んっ
男の人のにおいが…っ

おち○ちんの臭いが
濃い…頭がぼうつと
してぎちゃう

んっんむむぐっ
舐めると…口の中…
刺激されて…あああっ

おち○ちん…んっ
啜えるの…いい…んっ

さっきみたいにしたい…
んっんふあっ少しだけ…

ああダメっ
我慢出来ない…っ
フェラしてるだけなのに

アソコが疼いちゃってる…っ
ここに…ここに刺激が欲しいのっ

少しだけ自分で…
触ってしまおう…んっ

クチュ

あっ

んっ

んっ
んっんっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

とろけてる…
私のアソコ…

おち○ちんしゃぶって
とろけてるうううっ

ごめ…ごめんなさいっ
がまん出来なく…っ
あっ ああっ

美里さんは淫乱だねえ
私のチ○ポを舐めながら
自分でマ○コまよごべって
んのかい

ずちゅっ じゅぽおおっ
んっんっ

おち○ちん舐めながら
おま○こいじるの
気持ちいいっ

んああっんふっ
あふあっんっ
きもちいいっ

そんな事言われたら
もうたまらんなっ

びしょ
びしょ
びしょ
びしょ

びしょ
びしょ
びしょ





んぐんむごくつ
ごくつごくつ
しゅつごく濃い...

ほうら
まだ出るぞ

んぐつぐつ
もこれ以上飲めな...



ごほっけほっ
ごほっ
トホトホ

大丈夫か?
美里さん

大丈夫...です...

濃いのがこんなに
たくさん...

口の中がドロドロだわ...
こんなねばねばなの...
子宮にしっかり
張り付きそう...



美里さん
これが欲しいだろう?

っ凄い...お義父さんの
...まだ大きい

えっ...
そんな...こと...

私のチ○ポ舐めながら
マ○コほじっとったくらいだ
これが欲しくないわけがない

あ…あぁ…
欲しい…欲しい…っ

そんなに物欲しそうな目で
チ○ポばかり見て…
私が望みを叶えてやろう

あふう…ダメ…なのに…
お義父さんとこんなの…

くちょ くちょ

ダメなはずなのに…っ
おま○こドロドロに
なっちゃって…

よしよし私のチ○ポで
美里さんのスケベ穴を
埋めてやろうなっ

はい…

あぁっ 瑛太さんが目の前で
寝てるのに…っ お義父さんの
おち○ちんに抗えないっ

あああつ
瑛太さんの
目の前で…

瑛太さんの
お父さんの
硬くて大きな
おち○ちん

おま○こに
受け入れ
ちゃつてるう

ほうら
奥までズッポシだ

奥まで届い
ちゃつてるう…っ

瑛太さんの
より長くてっ

あつああんっ
凄い…凄いの…っ
こんな奥まで…ああっ

美里さんのマ○コが
蠢きながらチ○ポに
吸い付いて来とるぞ

膣内が勝手に
おち○ちんに
しがみついちやう

おち○ちん良くて…
あぁっ

おん

おん

どうれ
いっぱい擦って
やるからな

んはっ ああああうっ
激しくピストンされて
おま○こ汁ドブドブ
溢れちやうのおっ

おおマン汁が
泡立ってるぞ

ニホン

ニホン

あぁっ 気持ちよくて
本気汁が…止まらないっ
止まらないんですううっ

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

よおしよし
メス穴ガンガン
掘ってやるからな

よおし
ハメまくってあげよう

ハメてえっ
いっぱいハメハメしてえっ

うーん…美里お…
むにやむにや…

きゃふううううう
あっあああっ
んっんっのっ

ひゃいっ
んほおっんあああっ
しゅっしゅっのっ

ひっ

…大丈夫
起きはせんよ

でも…

お義父さん
激しくしないで…

こんな極上マ〇コを前にして
激しくやらない手があるかっ

あああつ
んぐつんんうう

気にせんでいのこ
ほらっ

あああ…んっ
んぐうう

声…声を
抑えないと…っ

お願い…
あなた
起きないで

お嬢さん
お嬢さん

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



すぴーっ
すぴーっ

ほら起きないだろう

どおれっ美里さんの
一番好きなGスポットだぞ

きゅんきゅんきゅん

わんわん

んんぐううう

喘ぎたくないっのに
あっあっあっ
おち○ちんの先が

Gスポットにグリグリっ
当てられて何度も擦られて
あああっんあふああつ

ぎゅん

おま○こ汁とお義父さんの
いやらしいカウパーが
膣内で混ざり合って…んっ

ヌルヌルのおち○ちんで
突かれまくるのいいっ

いっ
あふあああんっ

ぐんぐん

おうおう
いい声で鳴くねえ

声っ我慢したいのっ
したいのに出来ないっ
気持ちよすぎてあああうっ

自制なんて出来ないのっ
あつあつあああつ
頭バカになりゆっ

そりや最高だっ
自由にヨガリなさい

もうあああつ
おま〇こする事しか
考えられなくなりそううう

あつあつあつ
いくつあああつ

私あふつ
イクイクっ

ニギハヤヒ

もいッ
もいッ

もいッ
もいッ

もいッ
もいッ



可愛いねえ
遠慮なくイキなさい

瑛太さんの前で
瑛太さんのお父さんの
おち○ちんで

ありがとうごちそうします
美里おイキますうううっ
あっあっあっ

私っあああっ
イっちやうううううううう



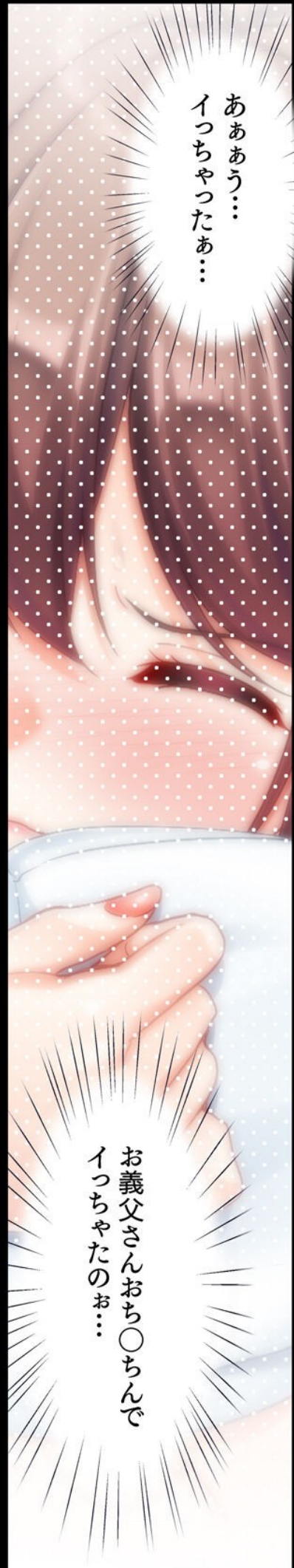
ああダメえっ
そんなっ

上手にイケたじゃないか
じゃあ今度はこうして…

もういった
いつてるのおまだあつ

いつちやつてる
からあああ…

びしょびしょ



あああう…
いつちやつたあ…

お義父さんおち○ちんで
いつちやつたのお…



はあ…はあ…
はあ
はあ
はあ
はあ

グイッ…

いった所をまた
突かれるのが
たまらんだぞ

すっ

あああつ
らめええ…っ

すっ

あつあああつ
イキつばなしになりゅっ
んはあつ

どおれほれっ
どうだつ

アソコが
けえれんしつばなしに
なつちやうう

はひっんひっ
お願い…もう
許してえ…っ

ズクズクズクズクズク

許す？

私は美里さんを
いじめてなんて
いないぞ？

ほら見てみなさい
美里さんの体はこんなにも
喜んでるじゃないか

ほうら今どうなっているか
言葉に出して言ってみなさい

そんな事…
あああつ

自分の体が
どうなっているか
言ってしまうば
些細な事など
吹っ切れるぞほら

んふうう…
だつてえ…あああつ
あふあつあんつ

あつああつ
でも…でもおお…つ



う…うう…
お義父さんが：
挿入ってますうう

何がどこに？
もつとちやんと
言いなさい

ズンズン
ズンズンズンズンズン

んふああつ
お義父さんのおち○ちんがあ
私のおま○こに挿入ってますうう

お義父さんのお極太おち○ちんがあ
ズンズンきちやってるのおおつ

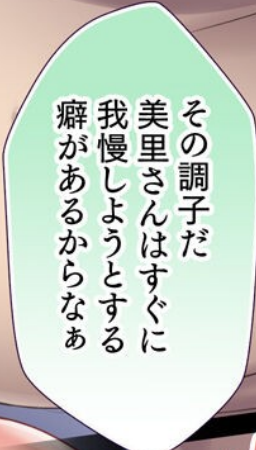
みち♡
みち♡

じゅんじゅん
じゅんじゅん
じゅんじゅん

じゅんじゅん

じゅんじゅん

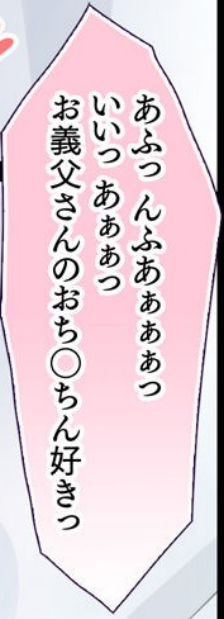
その調子だ
美里さんはすぐに
我慢しようとする
癖があるからなあ



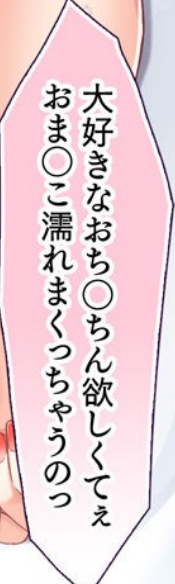
んふああつ
ははいいい



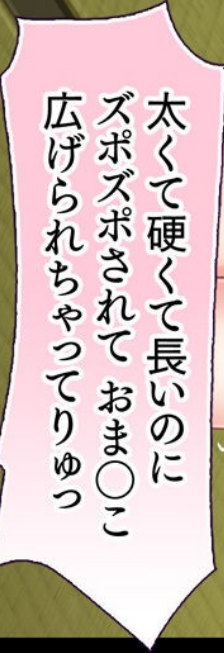
あふっんふあああつ
いいっあああつ
お義父さんのおち○ちん好きっ



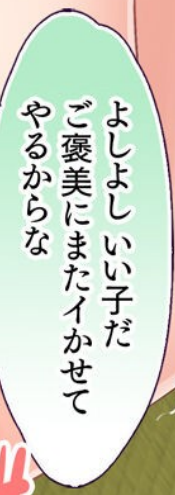
大好きなおち○ちん欲しくてえ
おま○こ濡れまくっちやうのっ



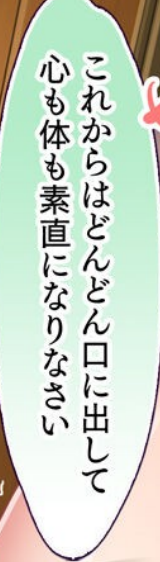
太くて硬くて長いのに
ズボズボされておま○こ
広げられちゃってりゅっ



よしよしいい子だ
ご褒美にまたイかせて
やるからな



これからはどんどん口に出して
心も体も素直になりなさい



グチヨグチヨって
ヌポヌポオって
やらしい音止まらにやうい

ああっ お肉とお肉があ
叩きつけられてえ パンッパンッて
音がする度にい

おち○ちん深い所にくりゆのお
あああああああああ
イクううまたイクううう

あふあああつ
しえつくすでこんな
気持ちいいの初めてえええ

ははは
嬉しいことを言ってくれるねえ
たくさんパンパンしてやるぞっ

おま○こパクパク
してきちやつてりゆつ
イクイクっ

パンパン



そろそろ
出るぞっ

えっらめっ
らめらめえ

ダメなのっ
本当はダメなのにつ

でも欲しいのっ
このまま出して
欲しいのおおっ

お義父さんの
おち○ちんの
精子欲しいのお

あなたあ…
ごめんなさいっ
私…私いい…っ

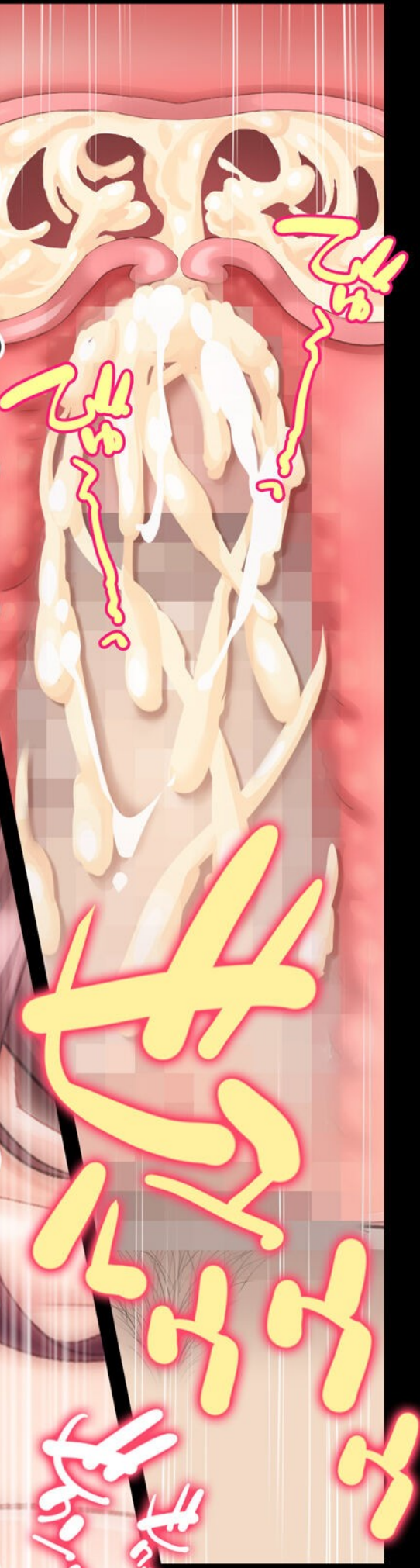
よしっ
出すぞっ

じゅわ
じゅわ
じゅわ

じゅわ
じゅわ
じゅわ

ドクドクきて…
熱いの…注がれてる…

あつふあああああああつあつ



おま〇こがあ…
しゅうしゅくしながらあ
お義父さんせえし
飲み込んでりゅう

せりっ
どいっ

あふああ…んっあああ…
瑛太さん…ごめんなさい…

はあ

はあ はあ

はあ はあ

はあ

私…あひっんっ
あなたのお父さんの
女になっちゃったあ…

はあ はあ はあ



ううっ
あつたま痛え…
完全に二日酔いだコレ…

あなたつたら…
はいお水

サンキュ
ああ…ダメだな…
少し横になるよ

大丈夫？

ああ
俺の事は気にせずに
過ごしてくれていいよ

分かったわ…

じゃあせつかください
もう一度お風呂頂こうかしら

あなた行ってきますね

おう…
ああ…イテテ…

ふうっ

やあ美里さん

おお義父さんっ
どうしてここに…

美里さんが露天に
向かうのが見えたからね
追いかけてきたんだよ

そう…ですか…

どれまた特別な
マッサージしてやろう

け…結構です…





おやおや本当かい？
昨日はあんなに
ヨガってたのに

そそれは…

今さら清纯ぶっても
私のチ○ポでアクメした
その事実は変わらんぞ



っそんな…

口で否定しても
身体は私のチ○ポを
期待してるんだらう？

あ…ああ…

そう…私の身体は
昨夜の快感を…
お義父さんの
おち○ちんを求めてる




さあタオルを取って
こっちに來なさい

気持ちよくしてあげるから

……はい……

抗えない…

アサッ



ふふふふ
明るい所で見ると美里さんの
体もたまらんねえ

ほら
私のはどうだ？

お

大きい…です
とつても太くて
…硬くて…

そう美里さんを
たまらなくする
最高のチ○ポだろう

はい…

あなた
ごめんなさい…

でも私…お義父さんの…
お義父さんの
おち○ちんの方が…

最高に気持ちよく
なれちゃうの…

いきなり挿入って…っ
んんはあああつ

大した前戯も
しとらんのにココはもう
ドロドロじゃないか

お義父さんのおち○ちん…
見るだけで…っ
奥からとんとん溢れてきてっ

おま○こが…
おち○ちん欲しい欲しいって
ヨダレを垂らしちゃったのお

瑛太とのセックスじゃあ
満足出来ん体になるだろうが
別にいいだろう

そんな事されたら…っ

ダメエ…そんな事…っ
私はあ…瑛太さんの
妻なのおおつ

嬉しいことを
言ってくれるねえ
それじゃあ美里さんの
マ○コを私のチ○ポの形に
作り替えてあげよう

美里さんも
義理堅いなあ

すぐにヨくなっちゃうっ
あっあひっあひいんっ

大きな黄色い「K」の文字と、赤い「あひっ」の文字が強調されている。

あっああああっ
クリいいっクリ好きいっ
もっ刺激してええんっ

美里さんは
快楽に弱いなあ

あひっあひっ

ああっそんなっ
急に一番…深いところいっ

こうして擦り上げると
クリにも当たっていいだろう？

よしっ私のチ○ポの事しか
考えられないくらい
突きまくってやろう

ああっダメっ
膣内だけじゃなくて
クリまで刺激されたらあっ

よわ…いのっ
気持ちいいのに
弱いのおっ

あひっあひっ

あひっ

あひっあひっ

こんな外でえっ 誰かにいい
見られるかもしれないのにつ

大好きな
瑛太さんのお
お父さんの
おち○ちんなのに

あつあつそれでもお
ぶつといおち○ちんっ
欲しいの止められないのっ

ひひひっ
うちの嫁は淫乱だねえ

私:こんなにも
スケベだったなんて
知らなかったのお

おち○ちんでゴツゴツ突かれるたびに
貞操観念とかあそいうの
どうでもよくなつちやうのおお

あつあつ
あつあつ
あつあつ

もつとつ……
もつとおま○こ
ズボズボしてえええっ

欲張りだねえ
そんなにマ○コ
ほじって欲しいのか?

掘ってえ 掘ってえっ
美里のおま○こ
ゴツゴツ掘ってえっ

あつあつ
あつあつ
あつあつ

あつあつ
あつあつ
あつあつ

おらっ
これでどうだっ

しゅわ
しゅわ
しゅわ
しゅわ

あああああついいっ
んっんはああああ
おま〇ことろけるっ

昨日もこれえ良かったのお
お義父さんの高速ピストン
しゅきっしゅきいいっ♥

せゅわ
せゅわ

あああああつ
えぐられりゅっ
おま〇こえぐられ
りゅううっ

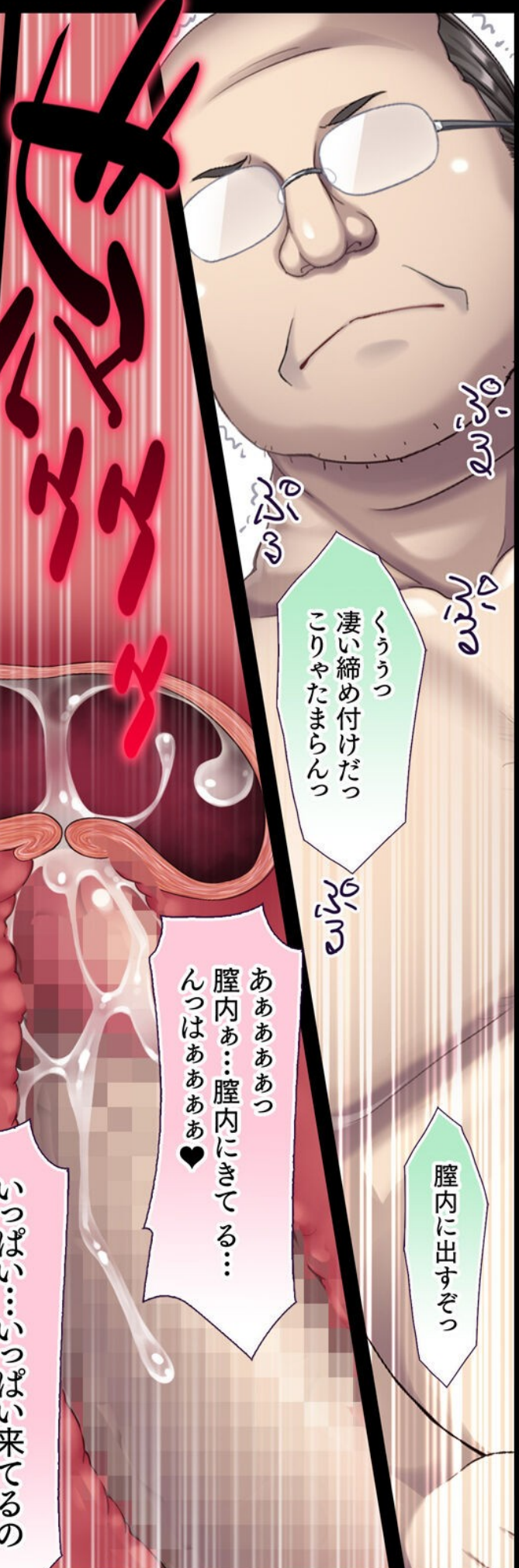
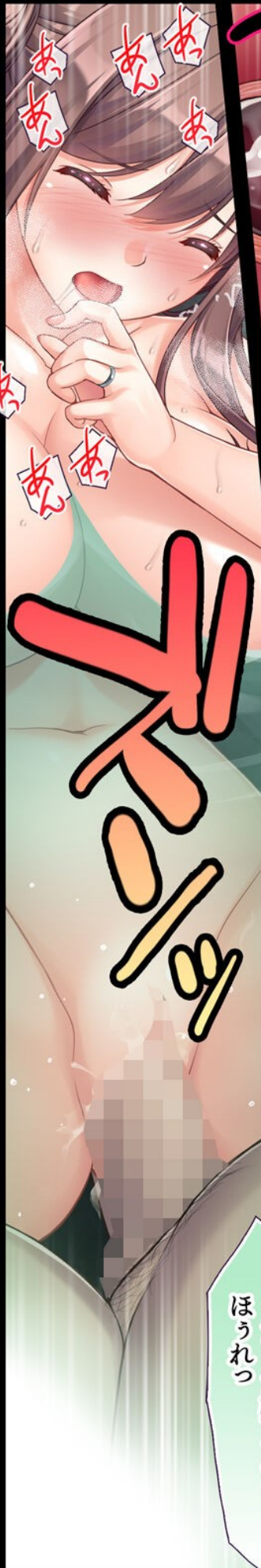
せゅわ
せゅわ
せゅわ
せゅわ

イクのか?
ん?
イクのか?

ひゃいっイキましゅっ♥
美里おま〇こもうイキましゅっ

グチヨグチヨおま〇こ
スポスポされて
イクううっ♥

せゅわ
せゅわ
せゅわ
せゅわ



くううっ
凄い締め付けだっ
こりやたまらんっ

あ

あああああっ
膣内あ…膣内…
んっはああああ♥

膣内に出すぞっ

いっばい…いっばい…
あああ…あふっ♥♥

いっばい…来てるのに…
おま〇この膣内のおち〇ちん
まだ硬あい…あふうっ

まだまだ萎えんぞおっ
ほうれっ

あ

あああつ
いつてるのっ いつてるのにい
おま〇こキてりゆうううっ

いつてる時に突かれるのが
たまらんのだらうっ

んひっんほっ
んほおおおおおおおっ
子宮にゴツゴツきてりゆううっ

あつあひつ
全身があ 気持ちよくてえ
おかしくなるううううっ

きやつふうううううんっ
イキっぱなしになりゆっ

あああつイクっ
またイクっ



ううつ精子が
搾り取られるぞつ

せえし期待してえ
おま○こ締め付け
ちやうのおおつ

また
出すぞつ

あつあひつ
また来たあ…つ
また中出しされちやつたあ…

きてつきてええええつ
あつついせえし奥に出してええつ

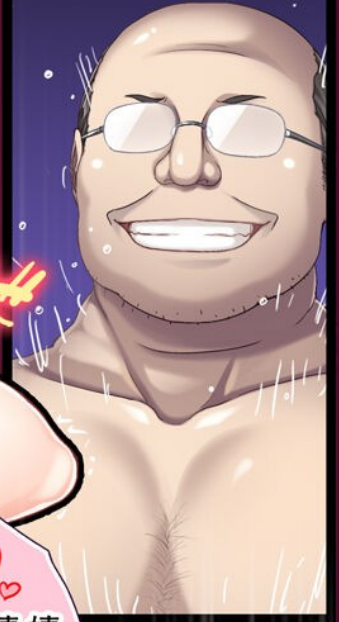
また中出しされて
精子溢れちやつてるう

美里さんのマ○コは名器だねえ
これなら何発でも出せるぞ

あああつお義父さんの…
お義父さんのおち○ちんも
とつても素敵ですううつ

何度でも復活する
淫しいおち○ちんで…つ
美里のおま○こもつと虐めてええ

可愛い嫁に頼まれたら
嫌とはいえんなあつ
ほれっ どうだっ



あああああつ
おち○ちん 凄いの おおつ
おま○こ 気持ちいいつ

嬉しいの
嬉しいのお淫乱おま○こお
気に入って貰えてえ

あつあつ あああつ
田中家にお嫁に来てっ
良かった あああんつ

ははははつ
よおし まだまだ可愛がって
やるからなあつ

美里さんの
マ○コは最高だつ

イキ狂うまでつ
おま○こ 突いて下しやいらつ

私のチ○ポは
たまらんだらうっ
チ○ポいいだらうっ

ほらチ○ポいって
言ってみなさいっ
さあっ

あうううっ オチ○ポおおっ
オチ○ポしゅきっ しゅきいっ

ドスケベ美里はあ
義父さんの
オチ○ポでえ

あひっひっチン…あふっ
オチ○ポおっ オチ○ポいいっ
いいでしゅうううっ

おち○ちん何て上品ぶった言葉より
チ○ポの方がドスケベな
美里さんにはよく似合ってるぞっ

しあわしえアクメ
キめちやいましゅううっ

あ

あひっ
あ

いっ

あふっ
あ

あ

あ

あ

あ



いじぞおつ
何回でも新妻マ○コっ
楽しんでやるからなあつ

ひやいつひやいつり
美里のおま○こ
好きにしてっ

あひつあふうううつ
オチ○ポしやいこおおつ

誰が来るとも知れない
露天風呂で二人は互いの
気が済むまで何度も何度も
熱く求めあつたのだった

あなた
行ってらっしゃい

おうっ
温泉効果で元気も出たし
仕事頑張ってくるよっ

じゃあ
行ってきますっ

温泉旅行から数日後――



美里が瑛太を見送ると
リビングの扉が
静かに開いた

ガチャ

瑛太も元気に
なったなあ

ところでこっちの
息子も元気なんだが……

お義父さんのモノ
もうあんなにも
大きくなって……

あの温泉旅行以来
お義父さんは毎日
私の体を求めてくる

ほら大好きな
お義父さんのチ○ポだぞ
欲しくなってきただろう

キル

そんな……こと……

そして私も……
お義父さんの誘いを
拒めないでいる……

あ…あぁ…
こんな事はもう…

そう言いながらほれ
マ○コはもうビシヨビシヨ
じゃないか

いや…
言わないで…
言わないでえ…っ

ビシヨ
ビシヨ
ビシヨ

じゃあやめていいの？
今日のチ○ポはお終いで
いいの？ん？

ほらっ…
どうして欲しい
んだい？

…オチ○ポ…欲しい
もっ…気持ちよく
なりたい…

お義父さんの…
オチ○ポでおま○こ…
…掻き回して欲しい

あぁだめ…

お義父さんとのセックスが
一番感じる体になっちゃったのおつ

よおしよしそれでいいんだ
望み通りマ○コ擦ってあげようねえ

あつあああつ
お義父さんのカリが
おま○この入り口に
ひっかかってえ……

その度につ
おま○こ広げられてえつ
ああつんふうううつ

おびおびいつて
恥ずかしい音っ
いっぱい漏れちゃううつ

おま○こ鳴いちやうつ
広げられたおま○こから
空気い入っちゃうううつ



美里さんっ
メス豚じみてきたねえっ

恥ずかしいんほおおっ
でもおでも私いつ
田中美里はあっ

おま○こ大好きメス豚あ…っ
メス豚主婦の美里でしゅううっ

メス豚だからあ
人間のお倫理観とかあ
どうでもよくてえ

旦那さんのおお父さんのお
大きなオチ○ポっ体の奥にい
受け入れちゃつてえ

あああつあひいいつ
ヨガリまくつちやうのによおお

あああつ
イクつイクのつ
あああつ

愛しいあなたを見送った
この廊下でえ
お義父さんオチ○ポでイクっ

しゅわが
しゅわが
しゅわが
しゅわが



もうイクのかい
早いねえ

私はまだイキそうにないから
遠慮なくこのまま突かせて
貰うよ

あつはああああん
激イキおま○こおおつ
ビクンビクンに震えてりゅっ

ドロドロに溶けたあつ
けえれんおま○こ突くのっ
許してえええええつ

それ以上突かれたらあつ
あふつあひいいい

連続アクメくりゆうううううつ

はっ♡

ほ♡

あ♡

あひっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

あひっ♡

はっ♡

じゅっ♡

じゅっ♡

あつ♡

うおおっ 締まってきたっ
締まってきたぞおっ

あひいっ はひいいっ
りやめっ っりやめっ
イキくりゆううっ

せええき欲しくてっ
子宮おりてくりゅっ
あああっ あふうううんっ

おま○こきゅつきゅうにゃのおっ
オチ○ポしゅきっ
お義父さんのオチ○ポ大しゅきいっ

おま○この肉があ
しゅうしゅくしてえ
オチ○ポ絞りすりゆのっ

オチ○ポ絞りで
ミルクちようらあいつ
あひいっ 締め付けおま○こで
オチ○ポ喜んでえええええっ

せゅんせゅん

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま



いい嫁をもって幸せだなあつ
ははははは

あつはああああんつ
お義父さんのしゅてきオチ○ポおつ
一生…あふううんつ

一生お美里にお世話しやしえて
くだしやいいいいい

ひやいいい
締めましゅつ

いいいいぞおつ
ほれつケツ穴に力を込めて
もつとマ○コ締めてみい

お尻もおま○こもおつ
もつともつと
締めちやいましゅうう

締め付けおま○こ
いいですか
あひいいい

くうつ
こいつはたまらん

ゼッ
ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ
ゼッ

チ○コ

チ○コ
チ○コ

チ○コ
チ○コ

チ○コ
チ○コ

いいぞっ 美里さんの
マ○コを味わったら
他では射精出来んなっ

嬉しいっ 嬉しいでしゅううっ
いつでもお 美里おま○こ
使って下しやいっ

くうっ イクっ
美里さん 出すぞっ

きちええっ アクメおま○こにつ
濃厚ザーメンきちえええええっ

セックス
ムンムン



中出しおまんこ
ドロドロ...

ドロドロ

ドロドロ

ドロドロドロドロ

おま○この中あ
タプタプに満たしやれて...っ
しいし溢れちやつてりゆうう

ああつ私い
お義父さんオチ○ポに
犯されてえハメられてえ

快樂まみれでえ
幸しえでしゆうう

ひんひん





あなた
行ってらっしゃい

おうっ
生まれてくる子の為にも
仕事頑張ってくるなっ

それから数ヶ月――

私は…きつと
あなたの子だと…
そう信じてる…

でも……
中出しされた回数
はお義父さんの方が
はるかに多い…

おいしい美里さあ
早くこっちに来なさい

美里



そして今日も…
私はお義父さんに注がれる…